

大人の図書室

ごく普通の専業主婦がNPOを立ち上げ、ヨーロッパと四国を結ぶ架け橋に……。WEBで話題の「すごいお母さん」の活動を集約。読むとなにか新しいことをはじめたくなる、前向きなパワーに満ちた一冊です。

photographer: Naofumi Mioki text: Hanae Kudo BOOK LUCK

interview

ご“本”人に聞きたいこと 尾崎美恵さん



香川県に住む普通の専業主婦が、子育ての終了と共に自らの活動をスタート！大学院入学、NPO設立、数々のイベントプロデュース……。好奇心と行動力を持ってひた走る、「すごいお母さん」の20年分のエピソードを一冊に。前向きに人生を楽しむためのヒントが満載！

『すごいお母さん、EUの大統領に会う』

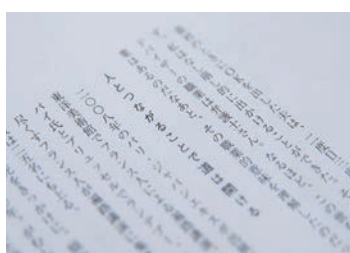
尾崎美恵 ￥0.000 (文藝春秋)

まず、一歩踏み出すこと。それだけで人生は変わります

四国の専業主婦がEUの大統領と面会……。センセーショナルなタイトルに、思わず目を奪われます。著者の尾崎美恵さんは、香川県丸亀市に暮らす3人のお子さんのお母さん。子育て中に習い始めたフランス語に夢中になり、子育てが一段落した43歳で岡山大学大学院・仏文研究科を独学で受験し、合格！フランス語講師として働く傍ら2008年にはNPO団体『四国夢中人』を立ち上げ、四国とヨーロッパを繋ぐ様々なインバウンド事業を行っています。

『すごいお母さん、EUの大統領に会う』は、そんな尾崎さんのこれまでの活動を、当時のエピソードとともに紹介した一冊。「猪突猛進型で、思い立ったら足場を固める前に走り出しちゃう」と笑う尾崎さんの発想は、実にユニークで斬新。例えば、「パリッ子に本物の讃岐うどんを食べさせたい」と、パリのジャンエキスポに単独でブースを出展したり、ヨーロッパの日本通プロガールを呼んで、四国の魅力を伝えるためのツアーを開催したり、俳人として知られるEU大統領（欧州理事会議長）に「四国について歌った俳句集をプレゼントしたい」とラブレターを出して、EU本部での面会を叶えたり。突拍子もないアイデアを、持ち前の行動力でどんどん実現していく姿は圧巻です。

「人とつながることで道は開ける」



「資金も組織も持たない私にとって、活動を通して培った人脈はなにより私の財産。出会ったたくさんの人たちとの縁によって、次々と新しい試みを実現できたのだと感じています。」(尾崎さん)

……。迷えるアラフォー女性にとって、尾崎さんは「なにかをはじめるのに年齢やタイミングなんて関係ないよ」と、背中を押してくれる頼もしい存在。読後は、自分も前向きに人生を楽しみたい！というパワーが、ぐんぐんみなぎってくるようです。「頭で考えるよりも、まず動くこと」。それがこれまでの活動で得た答えですね。歩み続けていけば賛同者が必ず現れます。今後はアートを通じて離島を活性化させたいと話す尾崎さん。「やりたいことはまだまだたくさん。止まっている時間なんて、どこにもありません(笑)」

今更の
ハッピー



すずきめぐみ◎食を中心とした雑誌の編集者を経て、食にまつわる本を扱う「COOKCOOP」のブックディレクターに。現在は、実店舗を持たず、場所やシーンに合わせたブックセレクト、イベント運営を行う。www.cookcoop.com

recommend

あの人がすすめる、 そんなときこんな本

ブックディレクター
鈴木めぐみさんの
「料理の楽しみを感じる本」



『伝言レシピ』
高橋みどり ¥1,500 (マガジンハウス)

作ること、食べることは、みんなに平等である

人は、料理を作ることや食べること、食についての自分なりのルールを、大なり小なり持っているように思います。しかし、それはときに大きな声では語られず、自分でも意識せず存在していることすらあります。

この『伝言レシピ』は、食まわりのスタイリストとして活躍する高橋みどりさんが、料理研究家やシェフ、料理上手の友人知人から「見聞き」し、「掘り出した」72のレシピを紹介しています。その数々は、言ってみれば口伝えでもあるため、なかには素材や分量が記憶違いで紹介されるレシピもあったりしますが、おもしろければ結果オーライ！

変さを持った、愛嬌のある一冊でもあるのです。

それにしてもどのレシピも、食材の組み合わせや調味料の使い方、ちょっとした調理のコツなど発見と驚きの連続で、「これとこれを合わせるんだ!」「とこんなにシンプルなプロセスで出来上がるんだ」と、味を想像しにんまりしながら見入ってしまいます。その人にお会いしたこともないのに、勝手に親近感がわいてくるから不思議です。みどりさんの手描きで綴られるレシピも、ほどよいぬげ感があり、肩肘張らない気楽さを思わせるのかもしれない。

わたしはレシピブックをはじめ、エッセイや絵本、コミックなど、「食」にまつわる本を扱う仕事をしています。日々、いろんな方のレシピに触れさせてい

ただく機会が多いのですが、料理家さんや作家さんが表現する「食」を、その人の思想や哲学のようなものだととらえています。

そんななかで、この本を手にするときいつも感じるのは、「料理は自由であっていい」ということ。そして、自分の手を動かして料理を作ること、自分がおいしいと思うごはんを食べること、多くのみんなにとって平等であるのだなと思うのです。

その人のこだわりは、読み手にとっては、もしかしたら些細なことかもしれないけど、本人にとっては、いい塩梅で、まぎれもないスタンダード。それを教えてもらうことで、自らも共感をおぼえ、わかちあうことができたのなら、それほど楽しいこととはありません。

本のなかで紹介されている「切り干し大根のベーコン炒め」や「素バスタ」など、気に入って繰り返し作っているメニューがいくつかあります。回数を重ねるなかで自分なりのアレンジを加えたものもありますが、料理の真髄はそんなところにあるんだよな。いつか誰かに伝言してあげたいいなと願って、今日も台所に立つのです。

秋の夜長のおともにしたいたい3冊 - BOOK REVIEW -

「愛された理由」が見えてくる

『お茶をどうぞ
対談 向田邦子と16人』

向田邦子
¥1,600 (河出書房新社)



文章の名人イコールおしゃべりの名人とはいかないが、この人に限っては話は別。自分自身の胸の内をさらりと聞きながら相手の懐にすりと入っていく話術に、テレビ界や文壇の重鎮も次々と陥落! 没後35年にしてなお輝きを放つ向田邦子の素顔がたっぷり。

薔薇がもたらす
甘い棘

『ラヴィアンローズ』

村山由佳
¥1,500 (集英社)



「主婦の抑圧と解放」を書かせたら白眉! 著者渾身の恋愛サスペンス。自庭の薔薇を育てることに心を注ぐ奥手の主人公が、男らしさと繊細さを併せ持つ歳下のデザイナーとの出会いによって自我を取り戻し、また壊れていく様がリアルに、ありありと描かれる。

和菓子から
季節を感じ取る

『IKKOAN 一幸庵
72の季節のかたち』

水上 力、南木隆助
¥4,500 (青幻舎)



日本の四季をより細やかに感じ取る72候をもとに、見目麗しい和菓子で表現する書籍が新装復刊。当代随一の和菓子職人である著者の水上氏は以前より海外への発信も積極的ゆえ、日英仏のトライリンガル仕様。ただ美しくおいしだけじゃない真髄がここに。